

川崎市市民ミュージアム資料等収集懇談会（美術・文芸部門）会議録（摘録）

1 日 時 令和7年12月19日（金）9時30分から

2 場 所 川崎市役所本庁舎復元棟1階102会議室

3 出席者

（1）委 員 家田委員、南雲委員

（2）事務局 川崎市市民ミュージアム 古泉担当課長、山崎担当係長、前崎職員

4 次 第 1 開会

2 懇談会概要説明

3 今回収集を予定している資料について

4 意見交換（資料収集方針との適合性や芸術性などについて）

5 閉会

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴者 0名

（次第一） 開会

（会議進行等説明）

（次第二） 懇談会概要説明、委員紹介

（資料1、2-1、2-2について説明、委員の紹介）

（次第三） 今回収集を予定している資料について

（資料3について説明）

（次第四） 意見交換（資料収集方針との適合性や芸術性などについて）

南雲委員

川崎市にゆかりのある、川崎市に貢献されてきた大矢先生の作品であり、大矢先生はこの数年間に渡り作品を寄贈され、市民ミュージアムにおいてよりよいコレクションとするために新たな作品を収集することは素晴らしいと思います。

「令和の春」については、昨年収集した椿の絵（「華・長寿」、「長寿花咲く春」）や、数年前に収集した散る椿の絵（「大樹・五色八重咲散椿図」）と題材が似ており、同様の系譜をたどる絵画と思いまして、そこが気になった点ではあるものの、新作である「富貴花」も寄贈されるということで、良かったと思います。

事務局

昨年度も両委員のご意見をお聞きして大矢先生の作品を収集し、現在市庁舎で飾っているところであり、今回収集を予定している作品についても色々なところで活用し、新たなミュージアムが開館する際には、作品展の開催も視野に入れながら、大事にしていきたいと思っています。

家田委員

先ほどの南雲委員のお話にもあったとおり、大矢先生は川崎市ゆかりの作家で収集の意義があり、今回の作品は大矢先生らしいものであると思いますが、昨年も申し上げたとおり、将来的に新たなミュージアムでの展覧会の開催を考えたときに、幅がある作品を収集したほうが活用しやすいということが考えられます。

寄贈は持ち主の方、作家の方のお気持ちによるところも大きいことは承知しておりますが、一つの美術館が同じ傾向の作品を多く収蔵すると、展覧会等で活用しきれないことも考えられます。今後画家の画業を通覧するうえで必要な作品の収集ということを考えたときに、どのような形で、どのような作品を御寄贈いただくか、先生と市民ミュージアムのほうでお話をされたほうが良いかと思いました。

ただ、やはり大矢先生は川崎市の文化大使であり、川崎市の文化を牽引していく画家として市庁舎に作品を展示し、市民の方に楽しんでいただくということであれば、本件はやや小さめの絵ですが、収集する意義もあると思います。

事務局

本件については、両委員の御意見も鑑み、当館としては収集する方向で検討を進めさせて頂きたいと思いますが、会議全体を通じて御意見等はございますか。

南雲委員、家田委員

特にありません。

（次第一５） 閉会